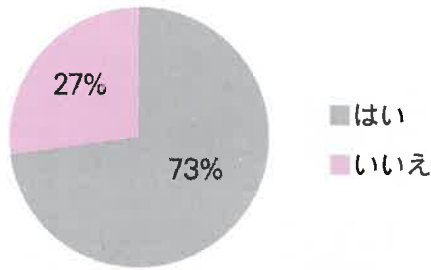
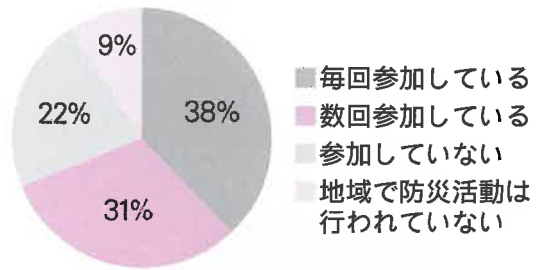


Q 自宅付近で避難経路を一つ以上確保していますか？



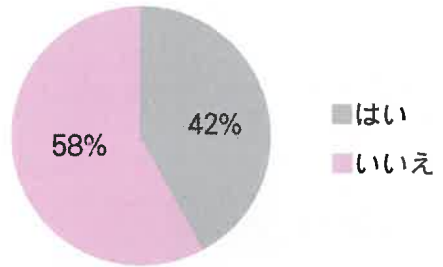
⑤

Q 防災活動に参加したことがありますか？



⑥

Q 外出先(会社、職場)での避難経路を知っていますか？



⑦

もし、津波が発生したら・・・

アンケートの結果から、津波に対する脅威をほとんどの方が持つておられ、その対策についての研究を続けていくべきと答えておられます。(グラフ①・②参照) また、防災に対する意識は概ね高く、「自宅付近で避難経路を一つ以上確保していますか？」や「防災活動に参加したことがありますか？」といった質問には約7割の方が「はい」と答えておられます。(グラフ③・④・⑤・⑥参照)

自宅付近の避難経路とは逆に、「外出先(学校、職場)での避難経路を知っていますか？」という質問には半数以上の方が「知らない」と答えておられることから(グラ

大山町における海拔測量と防災意識に関する研究を終えて

鳥取大学工学部土木工学科海岸研究室
井川 友裕



今回実施したアンケート調査から、回答者自身の被災直後の防災意識は高いことがわかりました。しかし、「天災は忘れた頃にやってくる」ということわざがあるように、時間が経つにつれて防災意識は低下していく可能性があります。よって、今回のアンケート調査から得た住民の防災意識、意見、要望を基に、地域と役場が連携した防災計画を継続的に行っていくことが防災意識の向上につながっていくと思います。

最後に、標高調査およびアンケート調査を実施するにあたり、終始ご協力いただいた大山町の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後の取り組み

フ⑦参照)、家庭での防災意識に比べ外出先(主に職場)での防災意識は低いと推測できます。今後は職場等での防災訓練や防災教育が必要ではないかと考えます。

町では今回のアンケート結果を今後の防災対策に活用するとともに、来年度以降も鳥取大学の協力のもと、津波対策事業を継続する予定です。また、津波対策だけでなく、土砂災害、地震に関する対策も進めていきます。

◆問い合わせ先

総務課

☎ 0859-54-5201